



国立研究開発法人 産業技術総合研究所

地質調査総合センター 採用案内

Geological Survey of Japan

GSJの役割

陸域・海域の地質調査、資源評価、地圏環境評価、活断層・火山調査などの国内外における調査研究業務

〈地質情報研究部門〉

地質情報の整備
(地質図の作成等) を
行っています。



地質図作成のための露頭調査

〈地圏資源環境研究部門〉

地圏の資源と環境に関する
評価と技術の開発を
行っています。



二酸化炭素の地中貯留に係る野外計測

〈活断層・火山研究部門〉

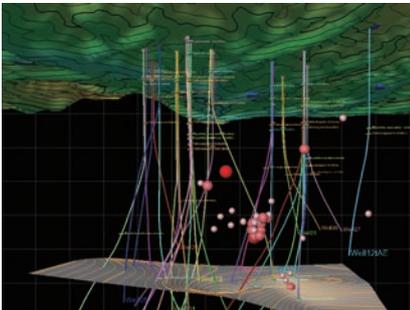
将来の地質災害の
活動予測や評価技術の
開発を行っています。



地震発生後の断層調査

〈再生可能エネルギー研究センター
地球熱ブロック(地熱チーム、地中熱チーム)〉

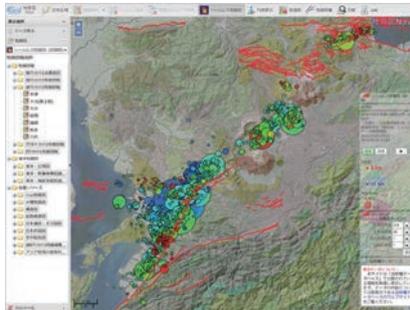
地熱・地中熱の
適正な利用のための
研究開発を行っています。



微小地震情報統合可視化システム

〈地質情報基盤センター〉

地質情報の
管理と利用促進を
行っています。



熊本地震の震源分布・活断層・地質等を
地質図NAVIでオンタイム統合表示

〈地質情報基盤センター:地質標本館〉

貴重な地質標本の
管理・展示を
行っています。



地質標本館第四展示室

GSJの職種 (多様な働き方)

- 研究職員 (修士卒・博士卒)
- 特別研究員 (ポスドク)
- 技術専門員
- リサーチアシスタント (博士前期・後期課程在籍中の大学院生)
- テクニカルスタッフ (契約職員)
- 研究支援スタッフ (総合職)

地質調査
総合センターの
仕事ってなんだろう?

最新の採用情報はコチラ →
https://www.aist.go.jp/aist_j/humanres/index.html



お問い合わせ

地質調査総合センター研究戦略部研究企画室 (国内連携グループ)

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1 (中央第7)

TEL : 029-861-3540 FAX : 029-856-4989 E-mail : gweb@gsj.jp

※電話でのお問い合わせは、土日祝祭日、年末年始を除く9:30 ~ 12:00, 13:00 ~ 16:30にお願いいたします。



「ずっとこの仕事を続けて行きたい」 誰よりも山を愛する研究員

「3年間で200日くらい、島や山を歩いたりして。道ではないところも歩いて地層を見るので、地元の方よりたくさん歩いているかもしれません。歩いて確認した地層の情報を繋げて行って、線にして、さらに面にして地質図をつくっていくんです。」

好きなことを仕事にしている人は、輝いている。佐藤さんは、まさにそれを感じる研究者だ。福岡県の山育ちで、山に抵抗はなかったという。卒業研究でのテーマも地質系のもので、修士卒業後に産総研に入所。研究内容は、白亜紀火山岩・深成岩類の火成活動の研究、そして地質図幅の作成である。最近、「播州赤穂」地域の地質図幅の成果をプレス発表したことで、大きな反響があった。

一度現地に足を運ぶと、大体15日間間は現地調査に入ったままで、長い時は3週間も。朝起きて陽が落ちるまで行い、宿に戻ってデータをまとめる作業の日々。そして現地の岩石を持ち帰って、顕微鏡観察など室内分析をする。

「山は自由ですから。基本は自分一人なのでいいですね。」苦勞を全く見せない佐藤さんは、大雨の時以外は調査に出るという。自分の中で地質学に基づいてポイント予測を立て、自分の足で歩いて確かめる。そして、また違う所を歩いて行くことと繋がっていくので、自分の予想通りになっていくことが何より面白いと佐藤さん。

研究成果は、一般的には土木建築や不動産関係にも用いられている。例えば、この場所には断層がある、この土地は沖積層という新しい地層なので軟弱地盤である、などと読み解くことができるのだ。

この研究が難しいところは、白亜紀の岩石となると現在までの間に1億年くらいあり、岩石が変質・風化したりするので、見た目が判別しにくくなる為に苦勞がある。熱水によって変質したりしたものだと見極めること。見落とさず、同じ火山活動でできた岩石なのに違う岩石だと判断しないように気をつけているという。

現地調査は、専門の岩石が分布している地域を選んで行く。「イノシシや鹿もいますよ。まだ襲われたことはないですね。」と笑いながら話してくれた佐藤さんの研究は、まさに自然と一体化した作業である。

「成果が世に出ることがやりがい。自分が出したものの反響があったり、周りの役に立ったり、活かしてもらえるようになったら嬉しいです。」

またどうしても調査区画が決まっていると、専門の白亜紀だけではなく岩石も出てくる。そのため今後は、それも踏まえてしっかりと全体を見ることができ、その歴史を読み取れるようになりたいという佐藤さん。きっと何年経っても、今のように笑顔で地質のことを話してくれるに違いない。



PROFILE

地質情報研究部門

佐藤 大介さん

Daisuke SATO

■入所年 2010年4月

■研究内容

主な研究内容または業務内容：白亜紀火山岩・深成岩類の火成活動の研究および地質図幅の作成

私たちと一緒に研究しませんか



PROFILE

地圏資源環境研究部門
CO₂ 地中貯留研究グループ

加野 友紀さん

Yuki KANO

■入所年 2008年4月

■研究内容

主な研究内容または業務内容：地球温暖化対策の一つであるCO₂ 地中貯留の安全な遂行に向けた技術開発、や地熱等の地圏資源の利用に関する技術開発を行っています。個人的な専門としては、多相多成分流体の反応輸送モデリング・シミュレーションを用いた長期予測技術の開発です。

地球温暖化問題との出会いがあったから、 今の自分がある

知らない街へ行くことが好きだという加野さんは、旅行と読書を愛する研究者。海外出張も増えてきて、ますます仕事を楽しんできているという。様々な国の人たちとの意見交換や、たくさんの情報収集ができることはもちろんのこと、「その国でしか味わえない空気が、全く違うんですね」、そう自分が目にした世界を話ってくれた。

もともと環境問題に興味があった加野さんは、大学時代の授業で出会った地球温暖化に対するテーマに興味を持つようになった。学生時代と現在の研究内容では、海洋中の流動、貯留層の流動という違いはあるが、モデリング・シミュレーションの手法には共通するものがある。問題解決へのアプローチは、日々学びの途中だが、学生時代にその基礎を学ぶことができたという。

現在の彼女の研究は、地球温暖化対策の一つであるCO₂ 地中貯留の安全な遂行に向けた技術開発と、地熱等の地圏資源の利用に関する技術開発である。

最も苦勞するのは、地面の中というのはデータを取ること自体が難しい場所だということ。地中で起きている挙動を知るため、地面の上から弾性波を送ったり、比抵抗や自然電位、微重力を測ったり、場合によっては井戸を掘ってコア試料やデータを取ったりしている。広い範囲を高い精度で見るとは難しいことで、得られている限られたデータの中からいかに精度の高いデータを活かして、モデリングするかが大変なのだという。

「研究を進めていく上で、一人で考え込んでしまうとどうしようもなくなってしまいます。産総研はせっかく幅広い専門の方がいるので、同じグループや部門をはじめ、別の領域の方にも積極的に話を聞いています。それがとても刺激になるのです。」

産総研を選んだ理由は、研究員として自分が興味を持っているテーマを進められると思ったこと。また、大きな国のプロジェクトに加わることが出来て、さらに社会と直接関わる研究ができるということ。そして実際に今、自分の進めている研究が外に広がっていく実感があった嬉しいこと、笑顔で答えてくれた加野さん。

研究所の採用は、博士号取得者の任期付きがほとんどだった中で、修士卒でパーマメントという採用プロセスをとっていたことも大きかった。安定した立場を据えて研究ができることが魅力だったからだ。産総研では修士卒であっても、就職してから学位を取ることが出来る。実際に、加野さんも入所してから学位を取得しているのだ。

地中の流れは様々な要素が絡み合って成り立っていて、捉えづらい。だからこそ、「見える化」を進めていきたい。そして、今はモデリング・シミュレーションを専門に行っているが、今後は現地のフィールド試験なども積極的に参加して行き、実際の現象をしっかりと捉えられるよう学んで行きたい、そう強く話してくれた。